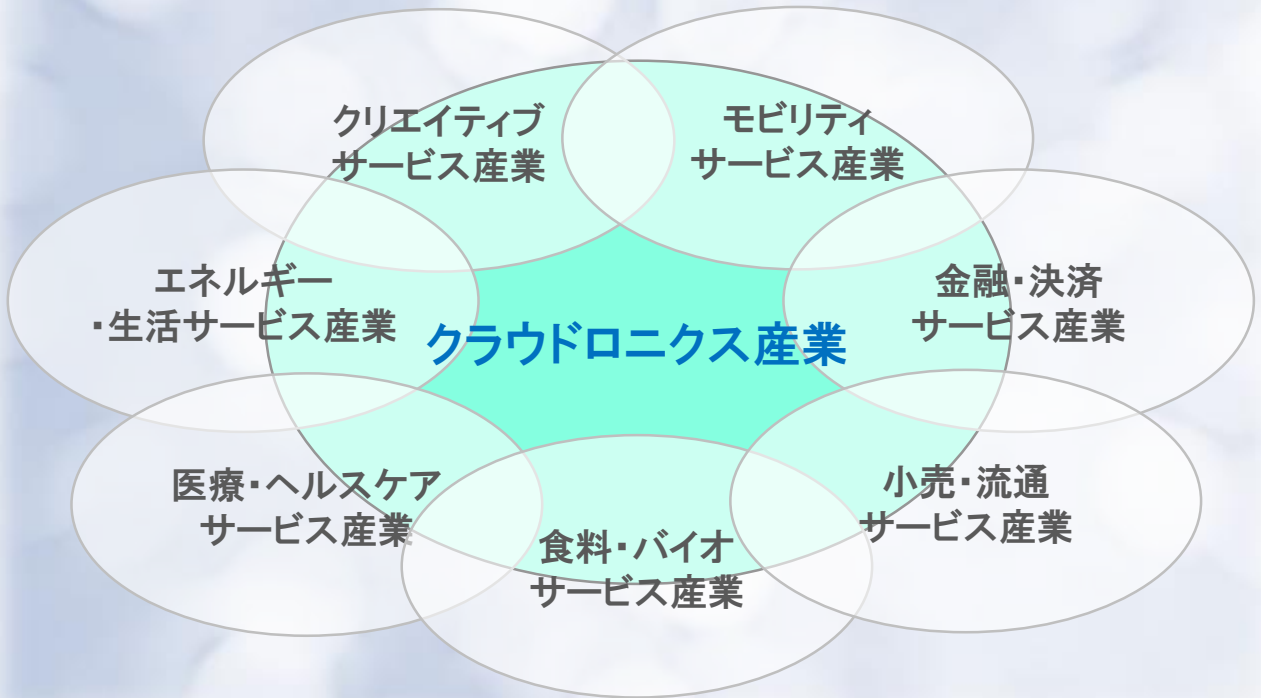


クラウドロニクス・サービス産業群



クラウドロニクス

ブロードバンド + “スパコン” + さまざまなデバイスやセンサー。

コンピューティングの新しい世界が幕を開ける。

さまざまな産業の一部がデジタルサービス化し、そこに重なり合う。

初期の頃、コンピューティング環境(IT)はパソコン1台の処理能力に頼るものだった。それが「ICT」と呼ばれる時代に入ると、パソコンはサーバーと連携し、その能力を使うことが当たり前になった。その結果、ネットワークは不可分になっていった。そしてこれからは「クラウド」、ネットワークが「ブロードバンド」へと進化する。ブロードバンドの特徴は「常時接続」、そして映像や音声をスムーズに流せることだ。これによって、ネットの向こう側にあるデータセンターの能力を、「サービス」として利用できるようになる。

ブロードバンドとつながることで、さまざまなデバイスやセンサーは「デジタルサービス」と一体化する。「モノ+サービス」で一つの商品になっていく。「モノ+サービス」という概念は、スマートフォンを考えれば理解しやすい。クラウド(ブロードバンド+スパコン)が実現するサービスと、さまざまなエレクトロニクス(デバイスやセンサーなど)の「融合」によって生まれるこの新しい環境を、本レポートでは「クラウドロニクス」と名付ける。

エレクトロニクス・通信・ネットサービスなどの連携は、やがて「クラウドロニクス産業」という一つのビジョンへ向かっていく。さらにこれを“土台”として、さまざまな産業の一部がデジタルサービス化し、領域を重ね合わせていく。全体としては「クラウドロニクス・サービス産業群」と呼ぶべき、新しい産業形態が形成されていく。

これまでコンピューティングは、エレクトロニクスやICT分野の中に閉じられたビジネスだった。だがクラウドによって、今まであまり馴染みがなかった産業分野へと進出が始まる。パーソナル・コンピューターの本格的な普及から約20年。コンピューターは、エレクトロニクス・ICTという“内海”から“外海”へ、ようやく船出したところだ。コンピューターの歴史はまだ始まったばかり、これからが“本番”である。